講演会　全3回　アイヌ民族綜合調査から再考する戦後日本の人類学史

伊藤敦規（いとうあつのり）
国立民族学博物館　准教授・北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員研究員

第一回 7.15（水曜日）2026　1950年代のアイヌ民族綜合調査に学ぶ研究倫理

参加無料　事前予約制　会場とオンラインの開催　申込期限：7/12（日）24:00 まで

◆詳細は表面をご覧下さい。

第二回 7.22（水曜日）2026　18:30 ~ 20:00　開場 18:00

参加無料　事前予約制　オンライン開催　お申込み期限：7月19日（日）24:00まで

◆表面の受付フォーム URL か QR コードからお申込み下さい。詳細は表面をご覧ください。
◆第一回講演（表面）の詳論となります。どなたでもご参加いただけますが、より専門的な内容となります。

再結束の機会としてのアイヌ民族綜合調査
――京城帝国大学医学部の戦後

京城帝国大学は日本の 6 番目の帝国大学でしたが、第二次世界大戦の敗戦にともない 1945 年に閉鎖されます。その後、常勤スタッフの多くは引揚研究者として本土の大学に就職し、研究活動を継続しました。例えば医学部関係者の戦後史は、八学会連合（対馬調査）・九学会連合（能登調査）への貢献で知られていますが、植民地大学人脈という強い結束を発揮し、とりわけ継続的に研究成果が発表されたのがアイヌ民族研究でした。本講演（第二回）では、京城帝国大学医学部の解剖学教室と法医学教室出身者によるアイヌ民族研究を彼らの戦前・戦中期の問題関心との連続性から振り返ります。

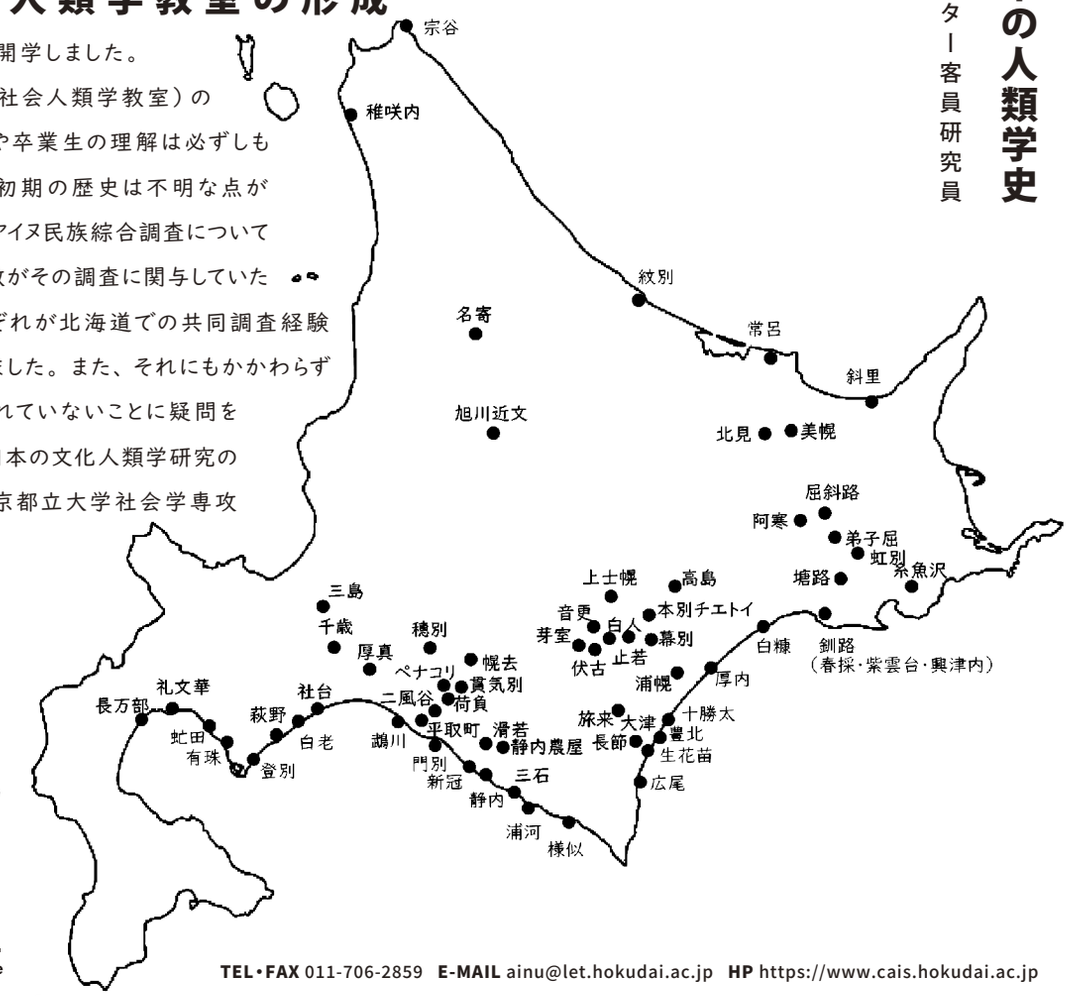
第三回 7.29（水曜日）2026　18:30 ~ 20:00　開場 18:00

参加無料　事前予約制　オンライン開催　お申込み期限：7月26日（日）24:00まで

◆表面の受付フォーム URL か QR コードからお申込み下さい。詳細は表面をご覧ください。
◆第一回講演（表面）の詳論となります。どなたでもご参加いただけますが、より専門的な内容となります。

アイヌ民族綜合調査と東京都立大学社会人類学教室の形成

戦後の 1949 年に東京都立大学が開学しました。その時にできた社会学専攻（現在の社会人類学教室）の創設期に関する当時の常勤スタッフや卒業生の理解は必ずしも一致しておらず、それゆえ教室の最初期の歴史は不明な点が少なくありません。私は 1950 年代のアイヌ民族綜合調査について深く調べる中で、教室スタッフの大多数がその調査に関与していたこと、さらに、さまざまな機会にそれぞれが北海道での共同調査経験の思い出を語っていることに気がつきました。また、それにもかかわらず教室の沿革として明確に位置づけられていないことに疑問を抱きました。本講演（第三回）では、日本の文化人類学研究の一拠点であり、私の母校でもある東京都立大学社会学専攻（社会人類学教室）の創設期を、1950 年代のアイヌ民族綜合調査との関係から考察します。



アイヌ民族綜合調査の調査地
伊藤敦規作成

Center for Ainu and Indigenous Studies
Hokkaido University
北海道大学 アイヌ・先住民研究センター
aynu teetawanoankur kanpinuye cise

TEL・FAX 011-706-2859　E-MAIL ainu@let.hokudai.ac.jp　HP https://www.cais.hokudai.ac.jp